

1. 基本情報

包括名	南部地域包括支援センターケアタウン小牧
担当圏域	小牧南部
運営法人名称	社会福祉法人 元気寿会

2. 地域包括支援センター事業計画の方針（市方針をもとに、圏域の特色や課題分析を踏まえて）

南部地区は、名鉄小牧線沿線上の地域であり、交通アクセスのよい地区であり、若い世代の人口は今後も増える予測され、高齢化率は横ばいで推移すると予測される。しかし、後期高齢者の割合、一人暮らし高齢者率は高く、高齢者のみ世帯数は多い特徴がある。昨年度末より、地域に向けた啓発活動を再開し、包括のPRと相談ブースを増やしたことで、相談件数も増えている。認知症に関する相談数の増加と、新型コロナの長期化でフレイル状態の人も増えているため、人と社会とのつながりを増やすと取り組みを地域と一緒に検討していく。相談内容は、世代を問わず複合的な課題を抱える場合も多いことから、様々な機関とのネットワークを構築し、連携しながら支援していく。□

3. 事業別の具体的な取組み事項

I 地域のニーズに応じて重点的に行うべき業務（総合相談支援業務）

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 （実施時期・回数等）	参考目標値 （市全域）
① 総合相談業務	①日報や相談受付票に相談内容等をもれなく記載し、誰がどのような対応をしたかパソコン内で共有しすぐに分かるようにする。初回のケース報告や支援方針などをセンター内で毎日朝礼で報告しあう。多問題ケースなどは、週1回のケース検討、月に1回のミーティングで対応を協議する。 ②年末年始を除く土日祝にかかわらず、毎日相談を受ける体制を継続する。緊急時に備え、就業時間外の連絡がとれる体制を継続する。 ③地域の集いの場に出向き、身近な場所で相談受付を行う。 ④小針の郷、ナフコ二重堀店 イオン小牧店での出張相談会を定期開催する。 ⑤「お元気だより」を隔月発行し、地域への回覧・配布を通し相談窓口であることを周知していく。 ⑥SNSを活用し 活動内容について幅広い世代に周知していく。 ⑦相談ツールを、訪問、来所、電話以外のメールやLINE等を活用し時間にとられない相談体制とする。	①②随時 ③圏域内サロンや老人クラブ等を対象に年10回以上 ④小針の郷・イオン小牧店：毎月 ナフコ二重堀店：隔月 ⑤偶数月発行 ⑥月2回更新 ⑦常時	15,000件
② 実態把握	①市域で行う簡易版チェックリストのデータをもとに、電話または訪問にて状況確認し、必要があれば支援及び介護予防の情報提供を行っていく。 ②地域の集いの場に定期的に出向き、地域課題の把握に努める。 ③地域支えあい推進員と情報共有会議を定期的に開催する。 ④年単位で新規総合相談及び人口動態の集計・分析を行うことで地域課題を知り、次年度の計画へ反映させる。	①10月以降 ②10回以上 ③毎月 ④1月末集計分析	-
③ 家族介護者への相談体制の充実・情報提供	①家族介護者交流会（男性介護者向け）開催していく。 ②就労している介護者に対応するため、土日祝日の相談体制の充実及び、LINEやメールを活用した相談体制を継続する。	①偶数月 ②随時	-

II 介護事業者、医療機関、民生委員・児童委員、ボランティア等の関係者とのネットワーク構築

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 （実施時期・回数等）	参考目標値 （市全域）
① 地域支え合い推進員や民生委員・児童委員等地域住民を支援するためのネットワークの構築	①地域支え合い推進員との連絡会を設け、地域の実情を共有するとともに、地域づくりのための連携を図る。 ②民生委員協議会に参加し、地域の情報の共有と個別の相談を承る。 ③民生委員協議会で定期的に勉強会を開催し、民生委員と連携を図りやすい関係性を構築する。	①毎月 ②年10回 ③年10回	ふくし座談会実施回数：16回
② 複数の課題を抱えている世帯に対する関係機関との連携協力による支援	①ケース検討会議及び地域ケア会議を開催し、他機関との関係作りを行い、情報共有しながら支援を行う。 ②必要に応じてこまきつながるくんやzoom等も活用しつつ、多機関とこまめな情報共有ができるよう連携を図っていく。	①②随時	-

III 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業）

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 （実施時期・回数等）	参考目標値 （市全域）
① 公的サービスやインフォーマルサービスを活用した自立支援を目標とするケアマネジメントの実施	①利用者の主体的な活動と生活の質を高めていく支援をする。 ②事業所内で互いにケアプランチェックをする事で、気付きを共有しケアマネジメントの向上を図る。 ③小牧市と協働で、多職種連携カンファレンスを開催する。（小牧市合同）	①随時 ②初回プラン作成時 ③年3回	-

<p>ケアマネジメントを委託する場合におけるセンターの適宜適切な関与</p>	<p>①委託事業所ケースの担当者会議に、積極的に参加する。 ②委託事業所毎に、担当職員を固定し、ケアマネジャーが相談しやすい体制づくりをする。 ③1人ケアマネで対応している委託事業所に対し、研修等の情報提供や後方支援を行う。</p>	<p>①随時 ②随時 ③随時</p>	<p>-</p>
--	--	----------------------------	----------

#### IV 介護支援専門員に対する支援・指導（包括的・継続的ケアマネジメント支援事業）

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 (実施時期・回数等)	参考目標値 (市全域)
① 日常的個別指導・相談	①主任介護支援専門員が中心となり、介護支援専門員からの相談に応じるとともに、指導・助言を行う。 ②地域のケアマネジャーにインフォーマルサービスの情報を提供し、公的サービス以外のサービスの活用できるよう取り組む。	①必要時 ②必要時	1,600件 (相談)
② 支援困難事例への指導・助言	①居宅介護支援事業所、小規模多機能居宅介護支援事業所の介護支援専門員との事例検討会を行い、困難事例等への指導・助言を行うと共に、お互いの学びの場としていく。 ②緊急対応が必要な相談時あった場合は、必要に応じて行政機関等関係機関と連携を図り対応する。	①4か月毎(オンライン検討) ②随時	-
③ 介護支援専門員の資質向上を図るための支援及び課題の把握	①「介護予防プラン作成のための研修会」を企画し資質の向上を図る。 (小牧市介護支援専門員連絡協議会、小牧市介護保険サービス事業所連絡会と合同) ②地域の事例検討会や介護専門員向けの研修会への参加を通じて顔の見える関係を築いていく。	①年1回(部会) ②随時	-

#### V 地域ケア会議

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 (実施時期・回数等)	参考目標値 (市全域)
① 介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力向上を踏まえた定期的な個別地域ケア会議の開催計画の策定と実施	①自立支援を目標とした地域ケア会議を小牧市とともに開催し、実践力向上を図る。 ②地域との関わりの事例や地域の課題を含む事例についての個別地域ケア会議を開催し個別支援を行う。	①年3回(多職種カンファレンス) ②年10回	40回 (個別会議)
② 個別地域ケア会議から見えてきた地域課題の抽出	①個別地域ケア会議から見えてきた課題を、その都度振り返りながらまとめ、地域課題を整理する。 ②地域課題について、関係機関と連携をとりつつ解決に向け取り組み検討する。	①年度末に実施 ②随時	-
③ 共有された地域課題の解決に向け、地域支え合い推進員との連携・協働による資源開発等の取り組みおよび提言	・地域で見出された課題を、地域支えあい推進員と連携し、圏域内の地域ケア会議を開催し、地域の課題解決に向けた検討をしていく。	年1回	-

#### VI 権利擁護事業

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 (実施時期・回数等)	参考目標値 (市全域)
① 尾張北部圏域権利擁護支援センターや弁護士等との連携による成年後見制度の活用促進	①尾張北部圏域権利擁護支援センター、地域包括ケア推進課長寿福祉係と連携を図り必要な支援を行う。 ②市内包括合同で成年後見制度や中核機関に関する勉強会を行い、包括職員が成年後見制度について学ぶ機会を作る。	①随時 ②年1回	尾張北部圏域権利擁護支援センターへの高齢者の権利擁護に関する相談人数：120人
② 高齢者虐待や重層的な課題がある困難事例への対応	・虐待ケースはマニュアルに沿って対応する。高齢者虐待防止ネットワーク会議に出席し多職種連携に努める。必要時には措置支援を行う。	随時	-
③ 消費者センターを始めとした関係機関との連携による消費者被害への対応	①消費者被害に関する相談は小牧市消費生活センターと連携し支援する。 ②消費生活センターと意見交換会(市内包括合同)	①随時 ②年1回	-
④ 虐待防止や消費者被害防止に関する普及啓発	①「お元気だより」やSNSに高齢者虐待防止や消費者被害防止に関する記事を掲載する。 ②介護保険事業所や医療機関、金融機関に対し高齢者虐待防止研修を実施し、知見を広めていくとともに、相談しやすい関係性を構築する。 ③地域住民に対して高齢者虐待防止に関する講座を開催し、普及啓発活動を行うとともに、地域住民が「虐待かも?」と感じたときに相談しやすい関係性を構築する。	①お元気だより：年1回 SNS：年2回 ②3か所以上 ③年1回	-

## Ⅶ 介護予防推進事業

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 （実施時期・回数等）	参考目標値 （市全域）
① 介護予防事業が必要な人の把握	①相談や訪問時に簡易版チェックリストを実施して、介護予防対象者を把握する。 ②市域で行う簡易版チェックリストの結果を元に介護予防事業必要者を把握し事業へとつなげていく。（把握事業） ③民生委員・保健連絡員等、地域住民との連携を取り、ハイリスク支援必要者を把握していく。	①随時 ②10月以降随時 ③随時	フレイルチェックをしたサロン数：80箇所
② 効果的で利用しやすい介護予防事業の実施及び普及啓発	①介護予防についての情報や講座の案内をお元気でより発信する。 ②地域の集いの場（サロン）にて、介護予防講話や認知症予防講話を実施する。 ③「南部こまき山体操の会」へ出向き、測定会時など継続サポートをしていく。 ④地域の保健連絡員との連携し、地域の健康展に参加し介護予防の啓発をする。	①年2回 ②年5回 ③年5回 ④2か所以上	週1回以上こまき山体操を実施している団体数：8団体
③ 「こまき山体操」等を活用した、住民の主体的な介護予防活動の場の支援	①「南部こまき山体操の会」への継続支援を行う。 ②住民の主体的介護予防活動の場で、こまき山体操の実演し、啓発活動を行う。	①②随時	週1回以上こまき山体操を実施している団体数：8団体

## Ⅷ 認知症総合支援事業

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 （実施時期・回数等）	参考目標値 （市全域）
① 認知症に関する知識の普及啓発	①認知症サポーター養成講座を小・中学校や、ステッカー啓発を実施した企業等で開催する。 ②認知症サポーター養成講座を市民対象に区単位で開催する。 ③オレンジカフェのスタッフに学びの場を提供する。 ④認知症サポーター養成講座の受講生を対象に、振り返りの講座を開催する。（包括合同） ⑤認知症に関する知識の普及啓発、認知症地域支援推進員の周知のため、介護保険事業所や医療機関と連携し、相談のしやすい関係性を構築する。 ⑥認知症に関するコラムをSNSに掲載し、幅広い世代への認知症の知識の普及・啓発を図る。	①3校 企業2カ所 ②年2回 ③年各1回 ④年1回 ⑤随時 ⑥隔月	・サポーター数：500人 ・まなびあい講座（ステップアップ）修了者：20人
② 認知症初期集中支援チームを始めとした関係機関との情報共有及び連携	・必要なサービスにつながらない方、医療機関への受診拒否等で支援が進まない方には、適切な時期に初期集中支援チームにつなげ、連携を図る。	随時	認知症初期集中支援チーム支援者数：16人
③ 認知症予防活動の推進	・認知症予防ゲームリーダーの活動の推進と小牧市で開催する認知症予防ゲームの支援をする。	随時	・担い手養成：5人 ・認知症予防ゲーム新規実施箇所数：2ヶ所
④ 認知症の人の介護者への支援（認知症カフェの開催や運営支援含む）	①認知症の方を介護している家族等が交流できる場を作り、介護者の負担の軽減を図る。（男性介護者向け） ②認知症介護者の交流会や認知症疾患医療センター主催の交流会への参加を勧め、介護者支援につなげていく。（包括合同） ③認知症カフェ運営2カ所の支援を継続する。	①偶数月 ②年1回 ③毎月	認知症カフェ新規設置数：住民：1事業所：1
⑤ 認知症高齢者等の見守り支援	①認知症声掛け訓練を小針の郷にて北里包括と合同で開催する。 ②認知症見守りネットワーク協力員及び認知症見守りステッカー事業の啓発を継続する。	①年1回 ②随時	見守りネットワーク新規協力員：10人

## Ⅸ 在宅医療・介護連携推進事業

実施項目	内容（何を、どのように）	目標値 （実施時期・回数等）	参考目標値 （市全域）
① 在宅医療・介護関係機関とのネットワークの構築	①こまきつながるくんを活用し、多職種と連携しながら、利用者への支援を行う。 ②在宅医療・介護連携サポートセンターと定期的に情報交換しながら、連携事業について検討していく。 ③医療介護勉強会、多職種連携研修会に参加し、他の職種の理解を深め、ネットワーク構築につなげる。	①②随時 ③年5回	多職種カンファレンス開催数：5回
② 在宅医療・介護の普及・啓発の推進	①生き生き人生プロジェクトに参加し市内の専門職とともにACPやわた史ノートの普及啓発活動を行う。（包括合同） ②わた史ノート普及啓発のため、地域のサロン等で出前講座を開催する。	①随時 ②2回	在宅医療普及啓発：8回

## X 地域包括支援センター独自の重点取組み事項【自由記載】

- ・認知症の方や認知症の方を介護する家族への支援の輪を広げるために、小地区で認知症サポーター養成講座を2回開催する。
- ・相談体制の強化として電話や訪問以外に各年代に対応できるよう、SNS等を活用した相談ツールや、地域での広報活動を拡大する。
- ・民生委員不在の地区に向けて、地域と一緒に考え支援可能な体制づくりを検討する。
- ・保健センターと連携し、地区保健連絡員と共に地域でできる介護予防について検討し、ミニ健康展を2か所以上で開催する。